



長野県議会議員

# 今井 あつし

県政報告

皆様のお声をお寄せ下さい。 自民党県議団 E-mail:nagano@jimin.info

## 諸課題に対して真正面から取り組みます。



新年ごあいさつ

新年あけましておめでとうございませう。旧年中は大変お世話になり、ありがとうございました。

さて、昨年は「御柱祭」や「全国植樹祭」「山の日記念全国大会」「G7長野県・軽井沢交通大臣会合」「第25回全国消防操法大会」などのお祭りや全国大会等が長野県内で開催されるとともに、NHK大河ドラマ「真田丸」効果などもあり、多くの方々に長野県を訪れて頂きました。

その様な中、議会では議会運営委員長、文教企業委員、選挙区等調査特別委員として、また各会派の代表者で構成された総合5か年計画研究会、長野

県短期大学4年生化に向けた懇談会などのメンバーとして、さらに、議会を積極的に県政や議会の課題に取組ませて頂いております。

また、地域においては「湯川バイパス」「上川橋の架け替え」や「滝の湯せぎの改修」などの社会資本整備事業や農業農村整備事業は確実に進んでおりますが、メガソーラー発電に関わる諸問題や諏訪湖の貧酸素化問題、第二期長野県高等学校再編計画もいよいよ策定に入るなど、新たな課題が出てきています。本年は、そうした新たな諸課題に対しても真正面から取り組み、長野県・地域の発展の為に全力を尽くして参る所存です。

本年も、どうぞよろしくお願い致します。



管内現地調査

## 議会 一般質問

平成二十八年

### 花きの振興と輸出拡大について

質問1

暖房機器を多く使用する花き類栽培では、低価格で効率の良いボイラーが求められている。野菜花き試験場では民間企業3社と共同で「農業用バイオマス暖房機」の開発に取り組んでいるが、開発状況とその見通しはどうか。



花き栽培調査

〔回答〕燃油との併用システム、いわゆるハイブリッド型ボイラーを開発することとし、現在研究を進めている。今後は、施設園芸への早期導入に向け、平成29年度の完成を目指す。

質問2

「信州花き輸出拡大・新需要創出事業」では、本県で開催する「国際フラワーフォーラム2016」を契機に花き輸出の拡大を目指しているが、今後の展開をどのように考えているか。

〔回答〕輸出に向けた研修会や商談会を開催し、意欲的に取り組む生産者を増やしていきたい。また、世界的に高い評価を受けているトルコギキョウなどを重点品目とし、東南アジアや北米を主要なターゲットに積極的な売り込みを図ってまいりたい。

### 観光行政の進め方について

質問1

県レベルでのDMOとしての役割を想定している県観光機構の活動は従来の県観光協会の活動からどのように変わるのか。県観光協会との違いは何か。

〔回答〕従来の県観光協会は、マーケティングに関する取り組みが必ずしも十分ではなかったと認識している。また、これまでは県観光部からの受託事業を中心に事業を行ってきたおり、民間感覚がやや不足していた。今後はマーケティングを重視し、継続的なデータ収集、分

析を行い、コンセプトやターゲットを明確にした上で、観光資源の掘り起こしやプロモーションを展開したい。また、民間出身者を積極的に登用し、長野県観光の中核を担う民間組織としての位置づけを明確にし、県観光機構が現在の誘客・宣伝中心の組織から、県全体の観光地域経営を担うかじ取り役へと、その役割を大きく変えていきたい。



諏訪湖の調査

### 現地機関の見直しによる「地域振興局」の設置について

質問1

今回の見直し案では、「横断的な課題」への対応が特に重要な課題としているが、これは具

体的にはどのような課題を指しているのか。例えば、以前質問した大規模廃屋問題、いわゆる県内主要観光地における廃ホテルの問題などは、県市町村、地権者などが連携して取り組まなければならない事案だが、このような事案を想定しての組織改革なのか。

〔回答〕大規模な廃屋の問題等については、地域の観光振興の上で大変重要な課題だと思っっている。現地機関をまたがるような課題については、これまで以上に局長がリーダーシップを発揮して市町村あるいは関係の皆様方としっかり向き合っており、それぞれの持つ現地機関の専門性というものを生かしながらこうした課題に対応していくことが可能になる。

質問2

「地域の課題を地域で解決」できるものとし、本庁はそのサポート役とするのであれば、例えば諏訪地域で取組みを開始している「諏訪湖環境改善戦略チーム」はどのような体制になるのか。また、諏訪地域振興局が中心となっていくというところでしょうか。

〔回答〕来年度、諏訪湖の水質保全計画を策定する予定。今までは水質保全に特化した計画だったが、これからは諏訪湖創生ビジョンという形で、水辺環境整備あるいはまちづくりの観点、こうしたものも加えていきたい。現在、地元関係者と一緒には諏訪湖環境改善行動会議を設置している。地域振興局の中に事務局を置いて本庁が支援すれば、地域の思いや考え方を中心に組み立てていくことが可能となる。

### 大北森林組合補助金不適正事案について

質問1

今回の事案は、大北森林組合の不適合受給期間が長期である上に、事案が複雑で全体像が分かりづらい。県はこれまで、どのような対応をしてきたのか。また県民に深く理解して頂くよう、今までの以上に丁寧な説明が必要と考えるがどうか。

〔回答〕事案の解明と検証委員会による検証、補助金返還請求、関係した職員処分、刑事告訴発など行政機関として行うべき対応は適正に実施してきた。今回の事案は、外部有識者による検証の経過もあるため、事案の経過、県の対応状況についても、有識者の客観的な立場から、改めて県民に説明する機会を設けていきたい。

# 世界かんがい施設遺産に

「滝之湯せぎ・大河原せぎ」が選定されました

世界かんがい施設遺産とはICID(国際かんがい排水委員会)が建設から100年以上経過し、かんがい農業の発展に貢献したものの、卓越した技術により建設されたもの等、歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設を登録・表彰する制度で、この度「滝之湯せぎ・大河原せぎ」が登録されました。滝之湯せぎ・大河原せぎは、今から200年以上前に坂本養川(さかもと ようせん)の高島藩への請願によって開削された農業用水路で、現在も利用されています。12月14日に農林水産省講堂にて登録証伝達式が行われ、茅野市滝之湯せぎ土地改良区と茅野市大河原せぎ土地改良区が出席しました。



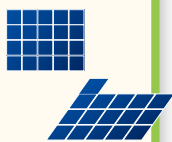
# ひまわり作業所・ひまわりの里 移転新築が完了

通常の事業所や企業で働くことが困難な方に、就労の機会や生産活動の機会を提供する就労継続支援B型事業所「ひまわり作業所」と地域活動支援センター「ひまわりの里」が老朽化したため、国・県の補助を受け複合施設として移転新築しました。精神障がい者の方々の社会参加と自立能力の向上を図る拠点として、これまでに引き続き地域に愛される活動が期待されています。ちなみに、ひまわり作業所で作っているクッキーは最高においしいです。是非お買い求めください。



# 太陽光発電施設に係る法整備を求める意見書を国に提出

11月定例会において、自民党県議団の発議により「太陽光発電施設に係る法整備を求める意見書」が可決されました。この意見書は太陽光発電施設建設が防災面や景観面等に悪影響を及ぼすことのないよう法整備を含む必要な処置を講ずるよう強く要請したものであり、国に提出し実現を求めたものです。なお、その他6件の意見書も可決されました。



## 重点要望

●「しあわせ信州創造プラン」は、計画の最終年度となることから、切れ目のない県政推進を図るため、次期総合5か年計画の策定に着手するとともに、人口減少の歯止めと人口減少を踏まえた地域社会の維持・活性化に向けた取組を一層推進すること。

●成長が期待される医療・健康関連産業、航空・宇宙産業等の次世代産業の創出に努めること。また、中小企業等の経営基盤の強化・創業支援を実施するとともに、新たな雇用創出・県内経済活性化のため、戦略的な取組を推進すること。

●農業の競争力強化を図るため、農業生産性の向上が必須となっており、老朽化した農業水利施設の計画的な補修・更新や新たな保全管理体制の構築、担い手への農地の集積に必要な環境整備を着実に進めること。

平成29年度当初予算編成及び施策について  
**自民党県議団、阿部知事へ要望書を提出!**  
平成29年度の県の予算・施策に対する要望について、11月7日から3日間、各種団体との県政懇談会が実施され、30団体から提出された要望について忌憚ない意見交換を行いました。懇談会で出された意見等は自民党県議団がとりまとめ、12月9日に阿部知事へ提出し、来年度予算や施策に反映するよう要望しました。

# 諏訪湖流域下水道白樺湖幹線供用開始

茅野市と立科町が白樺湖浄化のために設立した白樺湖下水道組合は昭和56年3月の供用開始から30年以上経過し、処理場の老朽化が進んでいました。施設更新を検討したところ、改修費用と将来の維持管理費に膨大な費用を要するため、処理場を廃止し、白樺湖幹線工事を実施し諏訪湖流域下水道へ接続を行うこととしました。平成22年に工事着手した白樺湖幹線は、平成28年3月に完成し、本年度の4月1日から供用を開始しています。これにより、これまで放流している音無川のほか、下流の上川、諏訪湖への負荷が無くなり水質が改善されるとともに、クリーンレイク諏訪で一元管理することで効率的な維持管理ができ、費用を低くおさえることができます。

